

命を守る避難行動

災害から命を守るために取るべき行動について、群馬大学大学院理工学府の金井教授に伺いました。



金井昌信さん

多くの人が逃げていない現実

「防災とは、災害から生命や財産を守る対策全般のことです。避難もその一つです。避難所を開設することは行政の役割ですが、避難は住民自らの判断で行います。適切に避難することができれば、災害による犠牲者を減らせるはずですが、多くの人は避難の必要性を理解していながらそれでも逃げていないのです。避難行動には人間の心の働きが大きく影響しています。一般的に『自分は大丈夫』と思いがちで、『周りの人も逃げていない』『以前も大丈夫だった』など理由を付けて、自分が逃げないことを正当化しようとする心理も働きます。

まだ何も起きていない段階で、避難を決心するのは難しいことですが、実際に災害が起きたとしたら、自ら行動しなければ命を失ってしまいます。命以上に大切なものなどないのですから、たとえ避難が空振りに終わっても、被害がなくて良かったと考えるべきです。

たと考えてほしいです。もし避難を判断したら、ぜひ近所にも声を掛けてください。勇気を出して逃げることは、自分の命を守るだけでなく、逃げようか迷っている誰かの背中を押してあげることにもなります」

今できる災害への備え

「防災教育として、小・中学校で話をすると、子どもたちは避難について素直に受け止めてくれます。子どものうちから避難の大切さを学ぶことはとても効果的です。しかし避難が必要になる状況では、子どもは家族と一緒にいる可能性が高く、大人が避難の判断をすることが想定されます。命を守るためにも、家族と一緒に避難の大切さについて考えてみてください。」

災害の備えとして、まずは自分の住んでいる地域の災害リスクをよく知っておくことが必要です。各市町村では災害の危険性を知らせるハザードマップを作成・配布していますので、避難所を確認したり、実際の避難ルートを確認したりしてください。

また避難行動は警戒レベルに応じて変わります。警戒レベル3の段階であれば、余裕を持って安全な場所に移動することができます。高齢者や避難に助けが必要な人も十分落ち着いて避難できるようにしましょう。

災害が発生してしまった警戒レベル5の状況下では、自宅の2階や近所の高い建物のような、少しでも安全と思われる場所に緊急的に避難するなど、命を守ることを最優先に考えた行動が大切です」

警戒レベルと住民が取るべき行動

危険度	警戒レベル	避難情報・防災情報	住民が取るべき行動
↑ 高 ↓ 低	5	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生情報 ・大雨特別警報 ・氾濫発生情報 等 	既に 災害が発生 している状況です。 命を守るための最善の行動 をとりましょう。
	4 全員避難	<ul style="list-style-type: none"> ・避難指示(緊急) ・避難勧告 ・土砂災害警戒情報 ・氾濫危険情報 等 	速やかに避難先へ避難 しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
	3 高齢者等は避難	<ul style="list-style-type: none"> ・避難準備・高齢者等避難開始 ・大雨警報 ・洪水警報 ・氾濫警戒情報 等 	避難に時間を要する人(高齢者、障害者、乳幼児など)とその支援者 は避難しましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨注意報 ・洪水注意報 ・氾濫注意情報 等 	避難に備え、ハザードマップなどにより自らの 避難行動を確認 しましょう。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・早期注意情報(警報級の可能性) 	災害への心構えを高めましょう。

※各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

例えば

次のような内容で自治体から避難行動を呼び掛けます(防災無線などを使用した呼び掛けの一例)

- 緊急放送、緊急放送、**警戒レベル4、避難開始。**
- こちらは、〇〇市です。
〇〇地区に洪水に関する**警戒レベル4、避難勧告**を発令しました。



これまでこんな疑問はありませんでしたか…

- ・避難勧告が発令されると、何をしたら良いの？
- ・避難勧告と避難指示(緊急)は、どう違うの？

これからは、**警戒レベルに注目!**

迷わず
避難する

避難勧告・避難指示(緊急)どちらも警戒レベル4に該当
避難する